

瀬戸内みらい会議（農水産業・商工業・観光業）

平成 21 年 11 月 18 日（水）19 時～21 時

瀬戸内市役所 3 階 第 3 会議室

参加者：市内の農水産業、商工業、観光関連産業を営む、男性 7 名、女性 3 名

市民から出た意見と市長の反応

テーマ：経営の安定と労働力が確保されたまち（商工業従事者）

企業が進出しやすい条件が整備されているまち（市内外企業）

にぎわいと活気のある観光のまち（観光客・観光産業従事者）

- ・牛窓で商売しているのもうかる町にしたい。そのためには観光客が増えてくれないといけない。しかし、最近は人の動きがない。散歩をしている人も観光客も…。観光客は、4、5 年前に比べると激減している。なぜかと考えてみると、人の嗜好が変わり、「観る」から「体験」に変わってきているのだと思う。牛窓で体験できるのはシーカヤックとかヨット。農業体験や漁業体験もできればいいが…。
- ・「観る」で言えば、歴史ある建物がもっと観てまわれるようにしたらいいと思う。あとは「食べ物」。名物料理が思い浮かばない。
- ・瀬戸内インターチェンジができる際、接続道を 2 車線化してほしかった。道路整備を進めてほしい。
- ・現在は、岡山へ通勤する方が多い。職場も住居も瀬戸内市内であるという方については税の減免等の優遇措置が受けられるとすれば定住者が多くなるのではないか。
- ・自家用車を使用することで発生する二酸化炭素の削減対策についても積極的に進める必要がある。
- ・若者の学力は確実に向上している。しかし、核家族化の影響などから昔ながらの知恵が落ちてきている。おかざりづくりなどの体験をすることで、若い人の生き抜く力が養われるのではないかと思う。
- ・神奈川県を参考に、岡山県とタイアップして観光ルートを作ってみたらどうか。

（桜田氏）

- ・市外からのお客さんに対しては牛窓を PR し、今では牛窓ファンも多くなっている。他では観られないもの、聞くことができないものがあれば、リピーターがやってくる。そのためには、住んでいる自分たちが地域の良さを理解した上で魅力を伝えることが必要だと思う。

- ・機動力のある女性をターゲットにする。そのためには、津山のホルモンうどんや日生のかきおこみみたいな名物料理があればいいが……。瀬戸内市は米も魚も豊富なのに名物料理がない。「食べる＝お金を使う」だと思う。
- ・歴史と食べ物、グッズをつなげる。
- ・牛窓は、袋小路的な地理条件。たとえバスを増便したとしても魅力がないと人は呼べないと思う。

- ・牛窓へ来て27年。暮らすことに関して不便は感じない。
- ・インターネットが普及してきた時代。光ケーブルを通してほしい。
- ・観光については、新しいものではなく、地域を見直しその地域にしかないものを掘り起こす。牛窓には、海ホタル、夜光虫がおり、これらの鑑賞ツアーを1年ほど前からやっている。暗い夜道を家族で歩いてもらう。それが口コミで広がり人気が出てきている。
- ・古墳見学ツアーなどもおもしろいかもしれない。シーニック・バイウェイを自転車で回るようなツアー。そのためには大規模自転車道の整備も必要になってくるかもしれない。

(市長) 瀬戸内市は、自転車愛好家にとって最高の条件を持っていると聞く。

- ・瀬戸大橋開通時は年6万人だった夢二生家への観光客も現在は2万人程度になった。
- ・地域の人に「夢二」を知ってもらいたい。瀬戸内市でも夢二のことを知っている人がだんだんと少なくなってきており、次の世代へ伝えていく取り組みが必要だと思う。地域のことを、住んでいる自分たちが知らなければ観光のPRもできない。
- ・お茶や軽食がとれるコーナーの設置やグッズの売り方、外国人向けのマップの作成等についても考えてみる必要がある。
- ・26年前、「備前伝」(備前式製法)により作刀していたこともあり、岐阜から旧長船町に移り住んだ。
- ・伝統や技術を継承するため、市内から後継者を出したいが、弟子は全て市外の者である。市外の弟子も資金のことやよそ者扱いされることで家や土地が手に入らず、なかなか長船に住むことができない。自分の子どもについても跡を継ぎたがらないのが現状である。
- ・「備前長船」の名は世界に発信力がある。外国人にも日本刀が好きな人が予想以上に多い。市には要請しているが、外国人向けにガイドできる人が必要である。
- ・1本の刀を製作するには1年程度かかる。注文を受けてすぐに作れるものではない。それがブランド化できない理由である。

- ・以前、教育委員会に、学校で刀についての講義ができるよう申し入れたが実現できなかった。また、平成になって鉄づくりを子どもたちに教えているが、なかなか根付かないのが現状である。
- ・観光ルート（例．刀剣博物館→夢二の生家→牛窓）のマップが必要。

テーマ：農水産業で生活できるまち（農水産業従事者）

- ・３０年前には１４０軒あった虫明の漁師も、現在は８０軒、１０年後には半減し、３０年後には全くいなくなるのではないかと思う。現在、カキの養殖をやらず魚だけを獲って生活しているのは１軒のみである。漁協でも、新しいことをやってみようという考えの人はいない。
- ・基本的に漁業は儲からない。経費はだんだんと高くなっているが、商品の単価が上がらない。海も以前に比べ、水質が悪くなっている。
- ・後継者の育成が急務であるが、儲からないから後継者が出てこない。自分の子どもにも勧めることができない。
- ・有機野菜を栽培している。夢だけでできる商売ではないため、儲からないと続かない。開業して５年でなんとか経営が安定してきた。
- ・現在の有機野菜栽培農家は、６０歳代、７０歳代が中心で、若者に農業への関心を持ってもらいたい。
- ・若くて農業に従事したい人は多いが、なかなか条件が合わない。まず、家の問題。若い世代では、家や土地を買う資金を持っている者はほとんどいない。そのため、農地や住居については借りざるを得ない。農地についてはなんとかなるが、住居については空き家を探してもなかなか借りることができない。２点目は、人間関係の問題。外から入ってくる人は、まず人間関係でもめてしまう。地元の人には、「興味半分で農業を始めても続かないだろう。」と思っている。努力が認められればもめることもなくなる。これらの問題を市が仲介役になってくれるようなシステムがあればいいのだが…。
- ・先日、１０数件の家族に農業体験をしてもらい大変満足して帰られた。観光にもつなげることができると思う。
- ・現在の米作農家は、小さな袋で一般の世帯に売っていく小売店的な農家と、大規模な面積で米作りを行う２種類がある。年々農家も激減し、３０年後には会社経営形態が進み、個人経営は難しい時代になっているのではないかと。お米の値段がもう少し高くなってくれないと経営は難しい。
- ・人口減少や核家族化の進行により、農業離れが進み、田園環境の保全についても困難な時代になると思う。
- ・自給自足を目標に２０００年から農業を始めた。

- ・観光客が多いのもいいが、マナーのない観光客、キャベツ泥棒が出ることもある。安心できるまちになってほしい。
- ・錦海塩田跡地問題もあって、水没の危険性からなかなか新たな投資ができない。
- ・畑かんが老朽化しているが、利用者が減っており維持管理が難しくなっている。利用者を増やすためにも後継者の育成は急務である。インフラ整備も必要であるが、市も「人」に投資することを第一に考えてもらいたい。

(市長) 今日の話をお聞きして感じたことは、長船のことは牛窓の人たちにとっては全くわからないことなのかもしれない、もしかしたら、倉敷のことと同じことでしかないのかもしれないということ。旧町の文化の相互理解がまだまだ進んでいないと感じた。

また、異業種の人との交流は非常に意義があると思った。それにより、今後の新しい取り組みも考えられるようになる。